

## 令和3年度 教務部 年間実施記録

|         |            |   |  |         |
|---------|------------|---|--|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | 1. データの管理やチェックを適正に行う。<br>2. ICTを活用し、さらなる分掌業務の効率化を進める。   |  |         |
|         | 現 状        | 1. 成績会議資料で、点検後に修正が必要となる事例がみられた。点検で見落とされる事例も、大元のデータに誤りがある場合もあった。<br>2. 資料の配付量や掲示量が膨大である。   |  |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>特に繁忙期におけるデータの管理やチェックのあり方の改善を図る。またデータ入力時の注意喚起にも留意する。</li> <li>引き続き各種業務内容の見直しを行い、校務処理を円滑に進める。</li> </ul>                             |  |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>データ取り扱い上の留意点を分掌内外に周知し、ゆとりある作業行程を心がけ、正確なデータ管理を行う。</li> <li>業務量の多い項目の改善に努め、ICT機器を活用する方法など、関係職員への周知と協力依頼を行う。</li> </ul>               |  |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>成績資料確認作業を分担するなど、適切な作業量を意識して実施した。</li> <li>授業変更をGoogle Classroomへ掲載する形式にして作業量を減らした。</li> </ul>                                      |  |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>Google Classroomを活用した周知ができています。</li> <li>今年度も成績会議後の成績修正事例があった。教務部内での確認のみならず、教科・学年・クラス段階で注意すべき要因がみられ、啓発や注意喚起を行っていく必要がある。</li> </ul> | 評価<br>B  |         |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい教育課程、観点別評価導入、指導要録様式変更への対応を進める。</li> <li>新しい校務システムの導入への対応を進める。</li> <li>正確な成績処理の進め方について啓発を継続する。</li> </ul>                       |  |         |
| 学校関係者評価 |            | 意見  | <p>Googleclassroomの活用についてのご指導をはじめ有意義な仕事をされいていると感じます。</p> <p>成績会議後の成績修正事例については、教務部にデータをあげる前段階の教科、学年、クラス担任の責任も大きいと思う。共同体制を強化してほしい。</p> | 評価<br>B |

## 令和3年度 総務部 年間実施記録

|         |            |   |         |
|---------|------------|---|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | 1. 150周年記念事業の具体化<br>2. ICTの導入による効率的な事業運営  |         |
|         | 現 状        | 1. 150周年記念事業が2年後の令和5年に行われる。<br>2. 全生徒へのタブレット配付、Classroomの実効的な運用の開始  |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における150周年記念事業についての体制を整える。</li> <li>・Classroom、タブレットを利用したPTA活動および職員会議の電子化</li> </ul>                                       |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・記念事業の具体化と、それに対応した部署の編成を行う</li> <li>・ICT委員会と協働し、体験入学、保護者アンケートやその他外部への通知等の電子化、職員会議資料のペーパーレス化をすすめる。</li> </ul>                 |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年記念事業検討委員会を立ち上げ、記念事業のリスタートと絞り込みを行った。</li> <li>・Google Suiteを用いて職員会議をはじめとした、総務部が扱い各種案内文書とその回答や申込のペーパーレス化を行った。</li> </ul> |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年記念事業については記念事業の大枠が定まった。</li> <li>・総務関連の案内や調査、会議についてはほぼペーパーレス化を達成することができた。</li> </ul>                                    | 評価<br>A |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年記念事業実行委員会の立ち上げ。各部署による具体的な計画の立案と実行坦懐へ移行する。</li> <li>・各種ペーパーレス化など、ICT化にともなう課題と改善について対策する。</li> </ul>                     |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | ペーパーレス化をはじめ様々な課題に対し丁寧にお仕事されていることに敬意を表します。   | 評価<br>A |

## 令和3年度 進路指導部 年間実施記録

|         |            |  |         |
|---------|------------|--|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | <p>1. 生徒の進路意識の高揚をはかり、第一志望を実現するための効果的な支援を行う。</p> <p>2. 大学入試改革に対応した活動を計画・実践しながら、理数系教科・科目の成績向上を目指すよう、各教科・学年に働きかけていく。</p>  |         |
|         | 現 状        | <p>1. 生徒の目標実現に向け、各学年段階での指導及び適切な進路行事を実施しているが、理数系教科・科目の学力不足により大学入試において苦戦するケースが見受けられる。</p> <p>2. 生徒の学力状況の把握と職員間での情報共有、継続的な授業改善、変化する入試改革への対応は、常に求められている。</p>                           |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年部、各教科との連携を密にする。</li> <li>・生徒の志望と学力状況を把握・分析し、職員間で共有しながら、目標を見定め、根拠ある活動につなげていく。</li> <li>・大きく変化した入試改革に対応した体制の構築と継承をしていく。</li> </ul>   |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年部、各教科と具体的に連携を図る。</li> <li>・学力状況を把握し、分析・共有して授業改善につなげる。</li> <li>・難関大受験に対応した授業実践を推進する。</li> </ul>                                    |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事の意義の共有や内容の充実に努めた。</li> <li>・成績全体のみでなく、各教科の分野・設問別の分析を促しながら、苦手分野・設問の克服に努めた。</li> <li>・教科へ課題提示と克服への方策の話し合いを設定した。</li> </ul>               |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年進路主担当と講演者の事前打合せを密にし、学年の要求・状況に即した実施内容となった。</li> <li>・設問別に分析することにより、苦手分野や改善点を授業の中で実戦・指導できるようになった。</li> <li>・教科内での本校の課題の共有に繋げた。</li> </ul> | 評価<br>A |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事作成の段階で、学年の状況をしっかりと捉え、実施や時期の見直しも含め、柔軟に対応していく。</li> <li>・理数系教科・科目の学力不足は今年度も大きく合否に影響しており、喫緊の課題として対応していきたい。</li> </ul>                     |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | 生徒たちに寄り添ったきめ細やかな指導を展開されていると思います。   | 評価<br>A |
|         |            | 学校として勧めたい難関大学だけでなく他大学（私大も含め）の情報もほしいと感じます。  |         |

令和3年度 生徒指導部 年間実施記録

|         |            |  |   |         |
|---------|------------|--|---|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | 1. 交通事故の未然防止   |   |         |
|         | 現状         | 1. 昨年度報告のあった自転車事故10件。臨時休校があったことを考えると、例年並みと思われる。<br>※H27-11件、H28-19件、H29-16件、H30-13件、R1-19件<br>やはり、1年生が多く、理由は疲れてぼーっとしていた、寝ぼけていたなどが多い。                                 |   |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故5件以内</li> <li>・自転車乗車に際してのルール、社会のルールを遵守する姿勢を育む。</li> <li>・生徒自らの発案による取り組みの充実。</li> </ul>                                  |   |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部会報（うぐいす坂）を通じた未然防止。</li> <li>・関係機関（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTAなど）との連携。その協力を得ての敬天週間の実施。</li> <li>・生徒会企画による交通安全教室への支援。</li> </ul> |   |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の協力を得ての年間4回の敬天週間の実施</li> <li>・年2回（秋田東警察署、生徒会企画）の交通安全教室の実施</li> </ul>   |   |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も大きな事故無く終えられたと見ている。報告のあった事故件数は13件。目標を大きく上回ってしまったが、内容を見ると、被害にあった形の事故が多く、生徒の自転車乗車時のルール遵守の姿勢はある程度育めたのではないかと考えている。</li> </ul> | 評価<br>B   |         |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎に警察から来る自転車乗車時の警告数を見ると、突出して多い月があった。油断せず、事故の未然防止のために常に生徒に呼びかけていきたい。</li> </ul>   |   |         |
| 学校関係者評価 |            | 意見   | <p>敬天週間、交通安全教室の実施など、積極的に取り組まれていると感じます。</p> <p>「次年度への改善策として」生徒への呼びかけだけでは不十分ではないだろうか。</p> <p>自転車事故は5件以内と言わず0件を目指してほしい。被害に遭わないよう危機管理の指導もしてほしい。</p> | 評価<br>B |

## 令和3年度 企画研修部 年間実施記録

|         |            |   |         |
|---------|------------|---|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | <p>1. 教職員個々のスキルアップを目指した授業改善サイクルを回す。</p> <p>2. 全職員協働で校務の効率化を目指した業務改善サイクルを回す。</p>   |         |
|         | 現 状        | <p>1. 授業改善・業務改善におけるICT活用が進んではいるものの、新たな環境への意識共有は十分でなく、リテラシー格差も生じている。</p> <p>2. 授業改善・業務改善のPDCAサイクルは確立されたものの、目標達成までのスピード感のある実践、効率化や省力化にはまだ課題が残る。</p>   |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>無線LANとICT機器の活用について、職員間の意識共有およびリテラシー向上に努める。</li> <li>校内授業研究会では、外部関係者も交え、教科を越えた活発な意見交換により、ICT活用も含めた授業改善をめざす。</li> <li>業務改善のPDCAサイクルを回し、目標達成までのスピード化を図る。</li> </ul>   |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT推進部をはじめ各分掌・学年とも連携を図り、授業や業務の改善に効果的にICTを活用するよう呼びかけ、各種情報提供を行う。</li> <li>校内授業研究会では、効果的なICT活用実践をテーマに実施する。前期・後期（公開）ともに、教科を越えた参観・協議を促す。</li> <li>業務改善は、前期・後期でそれぞれ分掌の実施状況を把握し、全職員で共有しながら、改善目標達成まで協働し取り組むよう働きかける。</li> </ul>   |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT推進部との協働、全職員との情報共有に努め、授業・業務改善に効果的なICT活用の手立てや各種情報提供を図った。</li> <li>校内授業研究会（公開）は、ICT活用推進モデル校事業中間発表会を兼ねて実施した。関心の表れか、外部参加者47名を含む102名が参加し、効果的なICT活用実践をテーマに研究授業・協議を行った。</li> <li>業務改善は、各分掌の取り組み状況や課題を全職員で共有し、分掌等を超えて定期的に改善提案を行いながら、目標達成まで協働し取り組んだ。</li> </ul>                             |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や業務の改善に効果的なICT活用への取り組みは、ICT推進部との協働、何より職員や生徒の積極的な姿勢のおかげで、日常的に活用が進んでいる。</li> <li>校内授業研究会（公開）では、効果的なICT活用実践をテーマに研究授業を行い、協議会も研修を兼ねてICTを活用した。参加者の多くに意識変容が見られ、所期の目的は達成できた。ただ、授業改善強化期間での相互授業参観の取り組みは低調だった。</li> <li>業務改善は、前・後期でそれぞれ各分掌の実施状況を把握し、全職員が共有し、改善目標達成まで協働し取り組むことができた。</li> </ul> | 評価<br>A |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善強化期間での相互授業参観については、効果的な方策を講じる。</li> <li>業務改善の成果や課題について、全職員で協議する機会を増やす。</li> <li>ICT推進部との協働をより強化し、ICT活用促進を図る。</li> </ul>   |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | <p>校内授業研究会、中間発表会、そして日常的な授業改善の取組、素晴らしいと思います。</p> <p>目標達成のための方策、具体的な取組、達成状況の記載がきちんと連動していて、とてもわかりやすい。</p>  | 評価<br>A |

令和3年度 特別活動部 年間実施記録

|         |            |  |         |
|---------|------------|--|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | 1. 自主的、実践的な集団活動を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。   |         |
|         | 現状         | 1. 多くの生徒は「文武両道」「自主自律」の精神を実現させるべく前向きに取り組んでいる。<br>2. 学業と部活動との両立に苦しんでいる生徒が多い。   |         |
|         | 具体的な目標     | ・各分掌と協力し、キャリア教育的視点に立ちながら「文武両道」「自主自律」を体現するための支援の充実を図り、特別活動を通じて人間性豊かな生徒を育成する。  |         |
|         | 目標達成のための方策 | ・部活動に取り組みやすい環境作りに努めるとともに、学業との両立を図るため、適切な部活動が行われるよう促す。<br>・LHRの時間を効果的に運用する。   |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | ・部活動における感染防止を第一に考え、校外部活動届と大会参加時の行動履歴記入用紙を作成し、各部に対して練習・大会時の感染防止策の徹底をお願いした。<br>・第4回「北雄の翼」は感染防止のためオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式で行われた。         |         |
|         | 達成状況       | ・各部活動において、感染防止を念頭に置いた練習や活動が行われた。<br>・感染防止策を講じながら各大会が開催され、運動部では4部述べ15名、文化部では8部述べ19名が全国大会へ進出した。<br>・LHRの時数を確保し、進路学習や講話など多岐にわたる活動が行われた。 | 評価<br>B |
| 次年度の改善策 |            | ・今後も感染状況等を注視しながら、部活動に取り組みやすい環境づくりに配慮する。<br>・引き続きハイブリッド形式が主体となる来年度「北雄の翼」において、参加した生徒にとって有意義な研修となるように準備を進める。                            |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | 感染防止を重視した練習や活動を丁寧にリードされてきたと思います。   | 評価<br>B |
|         |            | 「北雄の翼」報告書から参加した生徒の充実した学びが窺えました。  |         |

令和3年度 保健・教育相談部 年間実施記録

|         |            |   |         |
|---------|------------|---|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症予防及び感染拡大防止対策を行う。</li> <li>2. 環境美化を促進し学習環境整備を図る。</li> <li>3. 心身両面にわたる健康の維持・増進を実現するための支援体制を充実させる。</li> </ol>   |         |
|         | 現状         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マスク着用・換気状況等が不適切になる時季がある。</li> <li>2. 黒板周辺の汚れが目立つほか、ゴミの分別が不十分である。</li> <li>3. 悩みを抱えた生徒が多く、保健室やSCの活用が見られる。</li> </ol>   |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防・感染拡大防止への意識のさらなる高揚を図る。</li> <li>・ 環境美化週間において、黒板およびその周辺の清掃やゴミの分別を重点的に確認し、優秀クラスを増やす。</li> <li>・ 各学年部との情報共有を図り、生徒個々の状態を把握するとともに、必要な支援を組織的に行う。また、ピアサポート講座（年2回・10月）の対象・内容の拡充を図る。</li> </ul>   |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防・感染拡大防止のためのすみやかな情報提供・注意喚起をさらに工夫するとともに、必要に応じて消毒作業等を計画し、実施する。</li> <li>・ 厚生委員会を中心に、清掃・ゴミ分別状況を確認する。</li> <li>・ 生徒に対して細やかな対応ができるよう、SCとも連携し、部会等において情報を共有する。</li> </ul>  |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症対策として、昨年度より継続して毎朝の健康調査・体調チェックシート毎月回収を実施するとともに、物品を拡充した。「欠席・遅刻連絡フォーム」を感染症の状況に応じて改善した。各分掌等で実施する行事等において感染症対策総括担当者を配置し、実施して頂けるよう依頼した。</li> <li>・ 環境美化週間においては厚生委員が清掃状況評価に加え昇降ロマット清掃やハンドソープ補充も実施した。</li> <li>・ サポートが必要な生徒についての情報を部会で共有した。</li> </ul> |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症について、実施可能な対策はすべて取り入れた。状況はめまぐるしく変化したが、養護教諭が中心となり管理職とも相談しながら臨機応変で適切な対応に努めた。</li> <li>・ 厚生委員が、より主体的に活動できるよう、育成に力を入れた。</li> <li>・ 保健室を利用した生徒のうち、サポートが必要な生徒について、養護教諭と担任や学年部で共通理解を図ることができた。</li> </ul>  | 評価<br>A |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の体調管理について、現行の体調チェックシートを含め、より実効性が高く担任等の負担が少ない実施方法等を検討したい。</li> <li>・ 環境美化について、平素では手薄になりがちな部分（天井付近や隅々の埃・クモの巣等や窓枠等のカビ）の清掃時期・方法を検討したい。</li> </ul>  |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | 感染症対策の軸としてきめ細やかな取組をされてきたと思います。  | 評価<br>A |

## 令和3年度 図書部 年間実施記録

|         |            |   |         |
|---------|------------|---|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | <p>1. 図書館及び図書閲覧コーナーの環境整備を促進し、生徒や職員の利用に資する。</p> <p>2. 図書館報や図書便りを発行し、図書館と図書館設置の書籍について情報発信することで、読書に対する意欲を喚起する。</p>   |         |
|         | 現 状        | <p>1. 学習室として活用され、生徒にとっても重要な場所となっているが、図書館としての機能は十分には果たせていないため、環境整備とともに、新刊図書や推薦図書の情報提供を更に充実させる必要がある。</p> <p>2. 年一回の図書館報の発行にとどまっているため、生徒が作成する図書館便りを定期的に発行することを考えたい。</p>      |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書閲覧コーナーの利用者を増やす。</li> <li>・ 図書館便りを定期的に発行することで、図書館に設置している書籍に対する関心を高める。</li> </ul>  |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書閲覧コーナーに、図書委員が定期的に新刊図書や推薦図書を紹介する展示場所を作る。</li> <li>・ 図書館や図書館設置の書籍を身近に感じられるように、図書館のクラスルームを立ち上げ、図書館便りを定期的に発信する。</li> </ul>         |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書閲覧コーナーに展示場所をつくるまでには至らなかったが、図書館の Classroom を立ち上げ、図書委員による図書案内を投稿することができた。</li> <li>・ 図書委員が意欲的で、図書館の環境整備や読書の勧奨等に取り組んだ。</li> </ul> |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書閲覧コーナーの利用状況にあまり変わりはない。</li> <li>・ 定期的にはではなかったが、年度末に図書委員による図書案内を発信することができた。</li> </ul>  | 評価<br>B |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、図書閲覧コーナーの環境整備と利用者増に努める。</li> <li>・ 図書館のクラスルームを立ち上げたので、効果的な利用と生徒への周知に努める。</li> </ul>   |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | 図書委員による図書案内、読書推奨、環境整備等に取り組まれ、効果を上げていると思われます。  | 評価<br>B |
|         |            | 図書閲覧コーナーの利用者を増やす目標を掲げながらも、そのための方策である展示コーナーを設置できなかったのは、残念である。委員の生徒だけでなく、担当職員が動くことが必要ではないか。<br><br>電子図書はあるのでしょうか。あるいはその計画は？   |         |



## 令和3年度 ICT 推進部 年間実施記録

|              |                |   |                 |
|--------------|----------------|---|-----------------|
| 実施計画         | 重点目標           | 1. Google for Education・Chromebook、電子黒板等による ICT 活用の促進を図る。<br>モデル校として、ICT を活用した探究活動の充実を図る。   |                 |
|              | 現 状            | 1. Google for Education の導入により、学校全体で ICT 活用推進の環境作りは進んだが、無線 LAN・電子黒板・Chromebook の導入により新たな仕組み作りが必要である。<br>2. Google for Education の活用により、職員間の情報共有や校務の省力化、授業での ICT 活用は進んだが、職員・生徒の間でリテラシー格差が生じており、引き続き活用促進に向けたサポートが必要である。<br>3. 無線 LAN、Chromebook の導入にともないガイドラインを策定したが、実際の運用には職員間の意識共有と十分な実践が求められる。<br>4. ホームページの運用、情報更新が滞っていることから、必要な情報提供ができていない。改めて運用の仕組みづくりが必要である。 |                 |
|              | 具体的な<br>目 標    | <ul style="list-style-type: none"> <li>校務、学習指導における ICT 機器の活用促進を目指し、情報提供や研修機会の充実に努める。</li> <li>ICT 活用推進モデル校として ICT を効果的に活用した探究活動の体系化。</li> <li>従来の校内 LAN に加え、無線 LAN の適正な管理・運用に努める。</li> <li>ホームページ運用の仕組みを整え、最新情報の更新・充実に努める。</li> </ul>   |                 |
|              | 目標達成の<br>ための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画研修部と連携し、ICT 活用促進を目指した実践的な研修を実施する。</li> <li>ガイドラインは、職員・生徒の実情に照らし適正かつ柔軟に運用していく。</li> <li>従来の「知の探究」の年間計画に基づき、情報収集から論文やポスター・スライドの共同編集、発表まで、一連の活動に ICT を積極的に活用する。</li> </ul>  |                 |
| 実施内容         | 具体的な<br>取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画研修部と連携し、Jamboard 研修会を行った。</li> <li>生徒、教員に対して ICT 活用に対する意識調査を行い現状と課題の把握に努めた。</li> <li>モデル校事業中間発表では、企画研修部と連携し、校内授業研究会で、総合的な探究の時間の授業を公開した。</li> <li>生徒、職員用の端末や電子黒板の適正な管理を行った。</li> <li>ホームページ運用の仕組みを変え、最新情報の更新を行った。</li> </ul>  |                 |
|              | 達成状況           | <ul style="list-style-type: none"> <li>Chromebook 導入により、教員の ICT 活用に対する意識の変革がうかがえ、より積極的で効果的な取り組みが見られるようになった。</li> <li>Jamboard 研修会により、教員間や教員と生徒間での情報共有や意見交流、評価の仕方が効率的になった。</li> <li>モデル校事業中間発表では、本校の取り組みやその方向性を的確に外部に発信することができた。</li> <li>ホームページを大幅リニューアルし、タブレット端末からも閲覧しやすくなった。長期間更新が途絶えていた情報を一新し、本校の最新の活動を公開することができた。</li> </ul>                                  | 評<br>価<br><br>A |
| 次年度の<br>改善策  |                | <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリの更なる積極的な活用と効果的な方法の研究と情報共有を図る。</li> <li>Chromebook の不具合（今年度 140 台超）への対応を円滑に行う方策を講じる。</li> <li>モデル校事業 2 年目に向けて、探究活動委員会との連携し、総合的な探究の時間における ICT 活用スキルの向上を目指す。</li> <li>企画研修部とより密接な連携を図る。</li> </ul>   |                 |
| 学校関係者<br>評 価 | 意<br>見         | 中間発表会での ICT の丁寧な支援、日常的な支援など、ICT 活用の中心として活躍されました。秋田高校の取組を全県の高校に情報提供していただければと思います。  | 評<br>価          |
|              |                | かなり精力的な取組と努力が伝わってくる。現状を踏まえ専門的な知見を駆使して、できることから手を尽くしていることがわかる。  | A               |

## 令和3年度 理数科委員会 年間実施記録

|         |            |  |         |
|---------|------------|--|---------|
| 実施計画    | 重点目標       | <p>1. 日常の学習活動や行事を通して、科学や数学における系統的な理解を深め、自分の考えを表現する能力と態度を育てる。</p> <p>2. 理数科行事や課題研究の全体的な充実を図り、新しい講座やセミナーなどに積極的に参加させる。</p>  |         |
|         | 現状         | <p>1. 探究活動や行事が充実するほど授業時数の確保が困難になり、授業の進度が速くなり、十分に定着を図る時間が少ない。</p> <p>2. 現状において、つくば研修など校外行事は中止や限定的な開催となり、主にオンラインでセミナーやコンテストに参加している。各種講義・実験などの理数科行事は、満足している生徒が多い。課題研究においては、自立した研究者の育成をめざした指導がなされており、外部団体からも高い評価が得られたが、研究費用の確保、評価と連動した学習計画が未整備であること等の課題を抱えている。</p> |         |
|         | 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>理数科は理数に関する専門教育を行う学科であるという認識のもと、専門的知識を多彩に含んだ授業を実施し生徒の知的好奇心を高めるよう努力する。</li> <li>2年生の課題研究では全体のレベルアップを図り体系的な研究活動を進め、その評価を行う基礎を確立する。</li> </ul>  |         |
|         | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTやGoogle Classroomを授業や研究活動に積極的に導入するとともに配布物の電子化によるペーパーレスを目指す。</li> <li>研究グループごとにチャットroomを開設し遠隔でのディスカッションを行うなど情報共有を図り、計画書の編集などにおける生徒同士の協働を推進する。また、京都大学などが主催するセッション・コンテスト・セミナーなどに参加し、他校との共同研究を行う。</li> </ul>             |         |
| 実施内容    | 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の理数科設置校とのオンライン研修会やペーパーレスでデータのやりとりなどを行い課題研究の内容の充実を図った。</li> <li>博士号教員や大学教員による専門的な内容の講座を可能な限り実施した。</li> <li>1年生を対象として理数科の課題研究の紹介や生活の様子を伝えて理数科希望者を増やすことができた。</li> </ul>   |         |
|         | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究校内発表会で優勝したグループが京都大学でのポスターセッションに参加した。坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト優良賞、物理チャレンジ優良賞、高校生・高専生科学技術チャレンジ入選、日本生物学オリンピック本選取組賞などを受賞した。</li> <li>ICTやGoogle Classroomを積極的に活用し、つくば研修の代替として春季休業中に県外の理数科設置校とオンラインで交流会を実施できた。</li> </ul>         | 評価<br>B |
| 次年度の改善策 |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度入学生から1年次の総合的な探究の時間を探究基礎に組み替える際、内容を検討した結果、研究倫理に関するガイダンスを普通科と合同で先行実施したのでさらなる内容の検討を重ねる。</li> <li>1年生に対する理数科の紹介を充分に行い、希望者を増やすよう努力する。</li> </ul>  |         |
| 学校関係者評価 | 意見         | コンテスト、セッションなどへの積極的な取組で成果を上げられていると思います。   | 評価      |